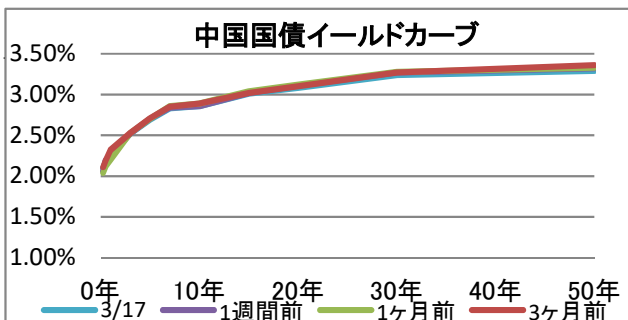
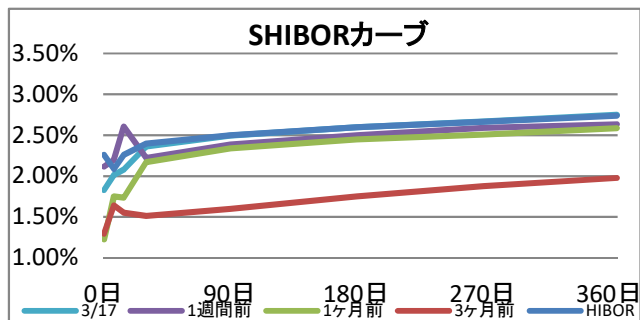


| 基準レート | | 2023/3/17 | (前週末比) |
|--------|---------|-----------|----------|
| 人民元基準値 | USD/CNY | 6.9052 | -0.0603 |
| | JPY/CNY | 5.1753 | +0.0608 |
| SHIBOR | 3M | 2.5000% | +0.0030% |
| 国債利回り | 10年 | 2.86% | +0.00% |
| 上海総合指数 | | 3,250.55 | +20.55 |



(1) 概況

国際金融市場では、欧米での金融機関の破綻や信用不安の高まりと金融当局等の対応により、株式市場と債券市場が乱高下する展開となり、外為市場ではドル安傾向となっているものの、値幅は限定的となっている。

中国金融市場では、全人代は閉幕したものの、四半期末を控えていることや、欧米市場の混乱に加えて中国の経済指標も回復傾向は確認できるものの、力強さに欠ける内容であることから様子見ムードが強く、株式市場は回復、債券は信用債中心に小幅に利回りが低下し、外為市場でもレンジ内での取引が続いた。中国人民銀行は、17日の夕刻に27日からの預金準備率0.25%の引き下げを発表している。

中国では、習近平主席が全人代閉幕で3期目の任務について、強国建設や民族復興を掲げつつ、高い質の経済発展の必要性を訴え、世界政党対話では、高いレベルの対外開放と市場参入の開放を続けると強調し、李強総理は全人代後の記者会見で、今後の政策運営の重点として、庶民の生活向上、質の高い経済成長、揺ぎない改革開放の堅持を挙げた。人民銀行は、全人代後の内部会議で、金融政策面では質の高い経済成長の支援目的で効果的での絞った穏健な金融政策を実施する方針を改めて示し、金融安定面では、高リスクの金融機関を秩序立てて削減するとともに、金融リスク処理メカニズムの強化が必要と強調。この間、中国では、党中央の直轄組織として金融行政を司る「中央金融委員会」や金融分野の規律強化を司る「中央金融工作委員会」を設置する機構改革案が公表された。外交面では、中国の仲介で、イランとサウジアラビアが外交正常化に向けて合意したほか、習主席の20日からのロシア訪問が公表されるなど、中国の動きが注目される。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日320億元、MLF期日2,000億元に対して、リバースオペ4,630億元、MLF4,810億元を実施し、ネットで7,120億元を供給。

(3) 主な経済指標

- ・鉱工業生産 (1-2月) は前年比+2.4% (12月、同+1.3%) と、12月対比プラス幅を拡大。不動産市場の低迷からセメント等の一部素材や販売不振が続く携帯電話は前年割れが続いたが、ゼロコロナ措置解除による消費回復等から、41大業種のうち22業種が前年比プラスとなった。
- ・小売売上高 (1-2月) は前年比+3.5% (12月、同-1.8%) とプラスに転化。ゼロコロナ措置終了と感染収束に伴い、商品販売 (1-2月、同+2.9%) が回復したほか、春節期間を中心とするサービス支出増から、飲食関係 (1-2月、同+9.2%) 等もプラスに転化。

② 資金市場

(1) 人民元資金市場

| | SHIBOR | 無担保資金 | レポ | NCD AAA |
|-----|---------|---------|---------|---------|
| ON | 2.2620% | 2.2000% | 2.5500% | |
| 1W | 2.0860% | 2.2900% | 2.2000% | |
| 2W | 2.2620% | 2.1500% | 2.5000% | 2.2000% |
| 1M | 2.3970% | 3.5600% | 3.5000% | 2.5000% |
| 3M | 2.5000% | 2.8500% | 2.9000% | 2.5300% |
| 6M | 2.5980% | 2.8700% | | 2.5500% |
| 9M | 2.6640% | | 2.8000% | 2.5950% |
| 12M | 2.7400% | 2.8700% | | 2.6800% |

中国人民銀行が四半期末に向けて資金供給を増やす姿勢を強めていることや、市場参加者の全人代終了後の政治とポストコロナの経済の先行きを見極めたいとの姿勢が強いことから動意の乏しい展開が続いた。ターム物の出合いは、1ヶ月が2.8%前後まで上昇して取引されている以外、出合いは限定的となっている。

NCDも、四半期末を控えて銀行の調達姿勢は依然強く、金利低下余地は限定的となっており、狭いレンジ内での取引が続いている。ターム物の金利水準は、1ヶ月と3ヶ月が2.5%前後、6ヶ月が2.5%後半、1年が2.7%前後で取引されている。

(2) 米ドル資金 (本土内)

| | BID | OFFER |
|-----|-------|-------|
| ON | 4.62% | 4.63% |
| 1W | 4.83% | 4.85% |
| 1M | 5.10% | 5.15% |
| 3M | 5.30% | 5.35% |
| 6M | 5.30% | 5.40% |
| 12M | 5.40% | 5.50% |

FRBの利上げ幅再拡大懸念が複数の銀行破綻により後退したものの、信用不安の高まりもあって、ビッドしっかりの展開に変わりはない。ターム物の金利水準は、1ヶ月が5.1%台で取引され、3ヶ月では5.3%が取り気配となっている。

③人民元債券市場

| | 国債 | 地方債AAA | 金融債AAA | 社債AAA | 社債AA |
|-----|-------|--------|--------|-------|-------|
| 3M | 2.10% | | 2.53% | 2.64% | 2.80% |
| 6M | 2.18% | | 2.61% | 2.68% | 2.84% |
| 1Y | 2.25% | 2.30% | 2.72% | 2.80% | 2.98% |
| 3Y | 2.52% | 2.63% | 2.91% | 3.11% | 3.68% |
| 5Y | 2.69% | 2.81% | 3.05% | 3.31% | 4.04% |
| 10Y | 2.86% | 3.04% | 3.24% | 3.54% | 4.37% |

中国国外の市場では債券利回りが急低下後に乱高下する展開が続いたが、中国国内債券市場は四半期末を控えていることや、ゼロコロナ解除後の経済動向や全人代後の政策を見極めたいとの様子見姿勢が強く、小幅な値動きに終始。米国では銀行破綻に対する懸念が払拭されずに利上げ幅再拡大に対する懸念が後退したことから、債券利回りは急落しており、10年国債利回りは3.43%（前週比-27bp）で週末を迎えており、10年中国国債（2.86%、変わらず）に対する上回り幅は+57bp（同-27bp）に一段と縮小している。

イールドカーブは、全体的に低下する流れが続いており、下げ余地のある中長期の信用債を中心に低下する格好でフラットニングに転じ、クレジットスプレッドも前週の小幅拡大から縮小に転じているが、いずれも小幅で調整の範囲内。

④先物為替市場

| | USD / CNY |
|-----|-------------------|
| 1M | -178.0 / -172.0 |
| 3M | -530.0 / -522.0 |
| 6M | -985.0 / -975.0 |
| 9M | -1385.0 / -1366.0 |
| 12M | -1695.0 / -1685.0 |

対ドル基準レートは6.9052と前週末比-603pipsのドル安元高、対円基準レートは5.1753と同+608pipsの円高元安と、市場でのドル安を映じた設定となっている。中国国内市場では、欧米での銀行信用不安による利上げペース鈍化への期待からドルの上値は重いものの、下値では実需のドル買いも入ることから6.85-6.90のレンジ内での取引が続いている。

先物は、米国での利上げ幅再拡大への懸念の後退によりマイナス幅が縮小に転じており、1年が一時-1500台まで縮小したものの、-1600台に戻して週末を迎えている。

⑤金利スワップ

| | Quarterly 7d Repo A/365 | Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360 | Annually O-N SHIBOR A/365 A/360 |
|-----|-------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 3M | 2.33% | | 1.77% |
| 6M | 2.33% | 2.55% | 1.90% |
| 9M | 2.35% | 2.57% | 1.91% |
| 1Y | 2.37% | 2.65% | 1.97% |
| 3Y | 2.64% | 3.00% | 2.05% |
| 5Y | 2.84% | 3.23% | |
| 7Y | 2.96% | 3.37% | |
| 10Y | 3.08% | 3.49% | |

スワップ金利は、債券利回りに連れて低下を続けており、債券利回りとの金利差であるスワップスプレッドも小幅な縮小が続いている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。